



TOYOShutter

2009年3月期 決算説明資料

東洋シャッター株式会社

私たちは企業品質の向上を目指し、
社会に安全・安心・快適・感動を提供し続けます

2009年6月4日

目 次

2009年3月期 決算概況 P3

経営環境	P4・5
決算概要	P6
収益性分析	P7・8
製品別売上明細	P9～12
キャッシュ・フロー計算書	P13
トピックス 新製品	P14～16

2010年3月期 業績見通し P17

経営環境の認識	P18
業績推移と計画	P19
通期業績計画	P20～22
配当政策について	P23

中長期戦略と事業の方向性 P24 (新中期経営計画『Fusion Plan 3』)

中長期的な事業環境	P25
基本方針	P26
重点施策	P27
数値目標	P28
具体的施策	P29
具体的施策の意義	P30
メンテサービス事業について	P31
営業・生産・製品の企画管理 の一体化	P32
製品別売上計画	P33

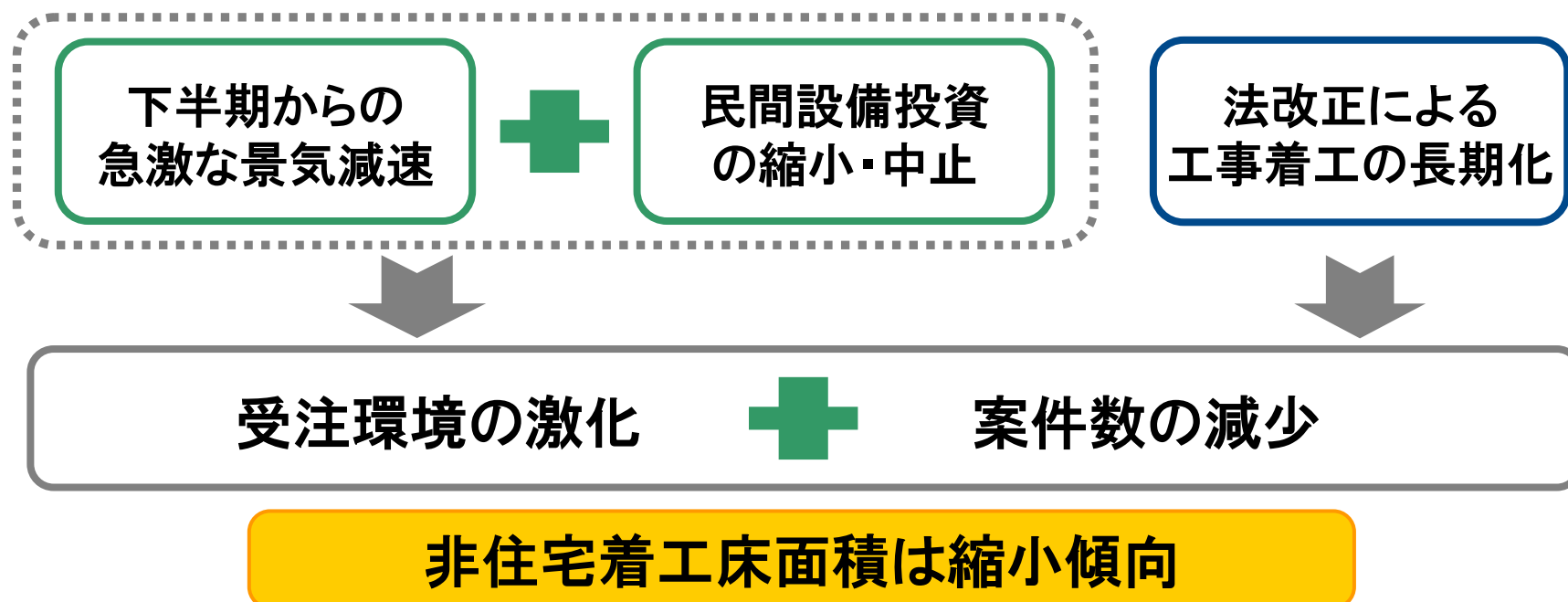
参考資料	P34
(東洋シャッターについて)	～P38

2009年3月期 決算概況

2009年3月期 経営環境①

TOYOShutter

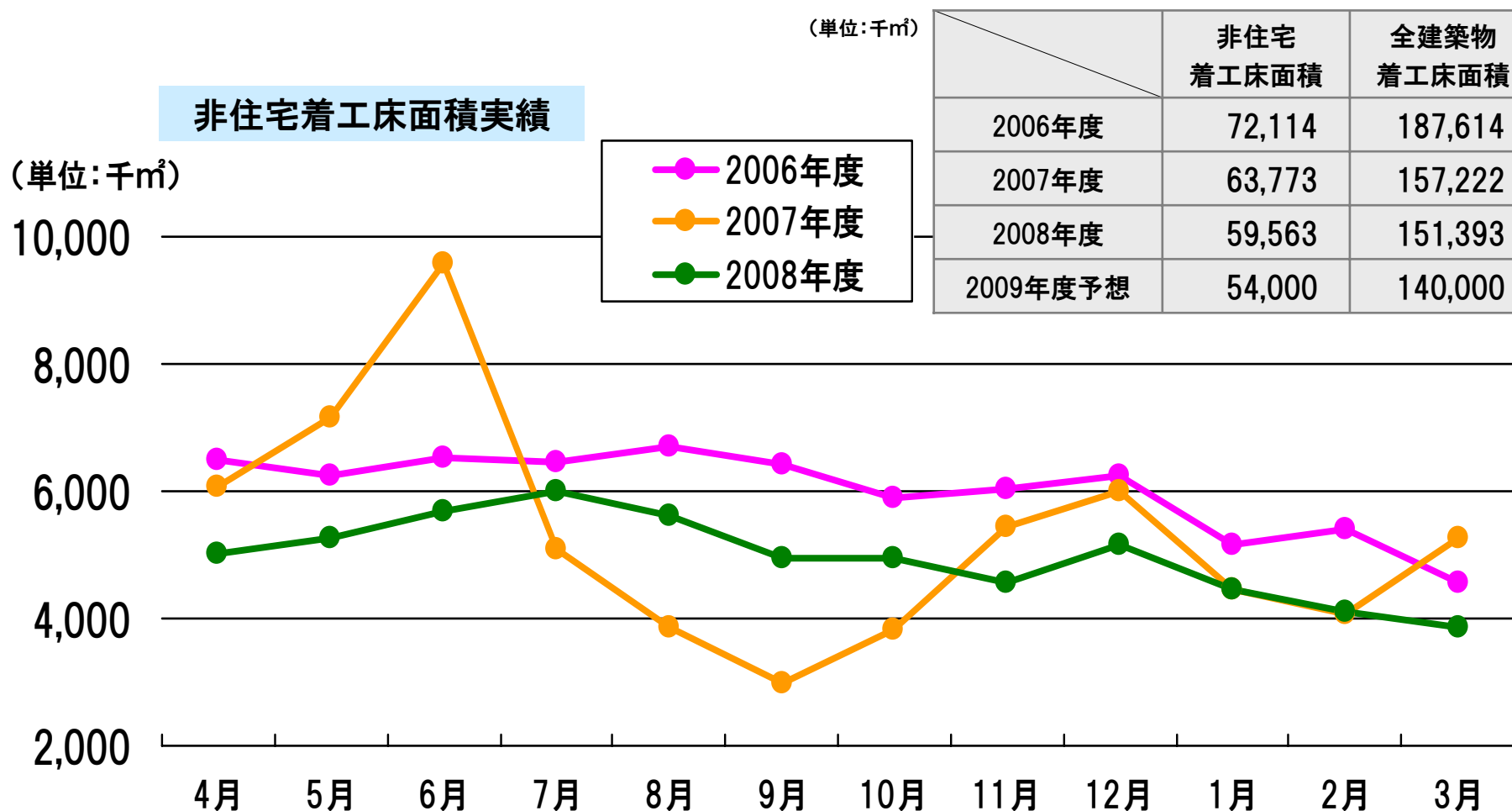
厳しい環境ながらも黒字を達成



「原価」と「コスト」の抑制を実施

2009年3月期 経営環境②

市場(受注環境)は経済環境悪化もあり縮小傾向に



国土交通省、(財)建設経済研究所資料より推計

2009年3月期 決算概要

The logo for TOYOShutter, featuring the word "TOYO" in blue and "Shutter" in green, with a stylized green shutter icon above the "O" in "Shutter".

- ①売上高 : マクロ経済悪化による需要減少の影響を受ける
- ②営業利益 : 採算重視の受注活動、販売管理費の抑制は行うが減収の影響を受け減益
- ③当期純利益 : 前期特殊要因(基金代行返上益19億円)解消も黒字確保

	09/3決算実績 (百万円)	前年同期比 (%)	期初計画比 (%)
売 上 高	20,706	△6.3	△5.9
営 業 利 益	337	△54.5	△66.2
当 期 純 利 益	132	△94.6 ※ [△75.9]	△83.5

※ 前期の厚生年金基金代行返上益の影響を除いた場合の前年同期比

2009年3月期 収益性分析

TOYOShutter

減収の影響で販売管理費抑制も減益避けられず

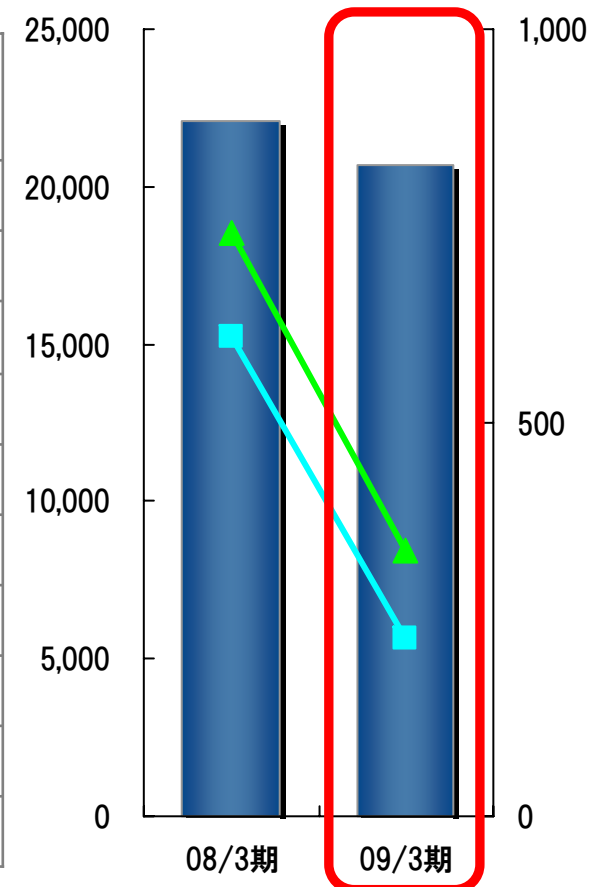
(単位:百万円)

	08/3期 決算	09/3期 期初計画	09/3期 決算	前年同期比 増減率
売上高	22,105	22,000	20,706	△6.3%
売上原価	16,750	-	15,761	△5.9%
売上総利益	5,354	-	4,944	△7.6%
売上総利益率	24.2%	-	23.9%	△0.3pt
販 管 費	4,611	-	4,607	△0.1%
営業利益	742	1,000	337	△54.5%
営業利益率	3.4%	4.5%	1.6%	△1.7pt
経常利益	608	880	225	△62.9%
当期純利益	※ 2,447	800	132	△94.6%
減価償却費	390	-	444	13.8%

■ 売上高 ▲ 営業利益 ■ 経常利益

(売上:百万円)

(利益:百万円)

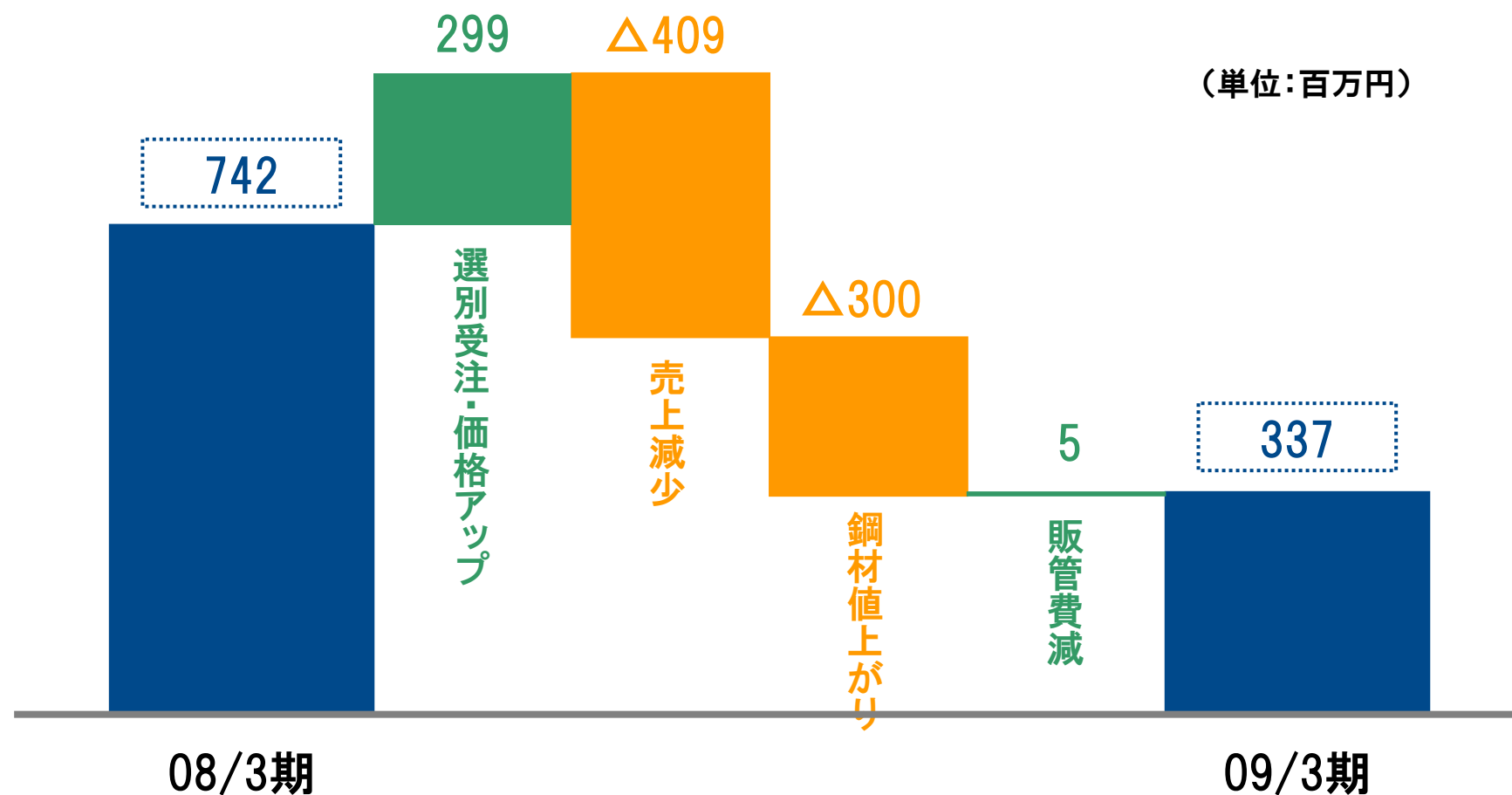


※08/3期には、厚生年金基金代行返上益1,900百万円を計上

営業利益増減要因 (09年3月期累計)

TOYOShutter

選別受注・価格上昇も、原材料費上昇・減収の影響があり減益



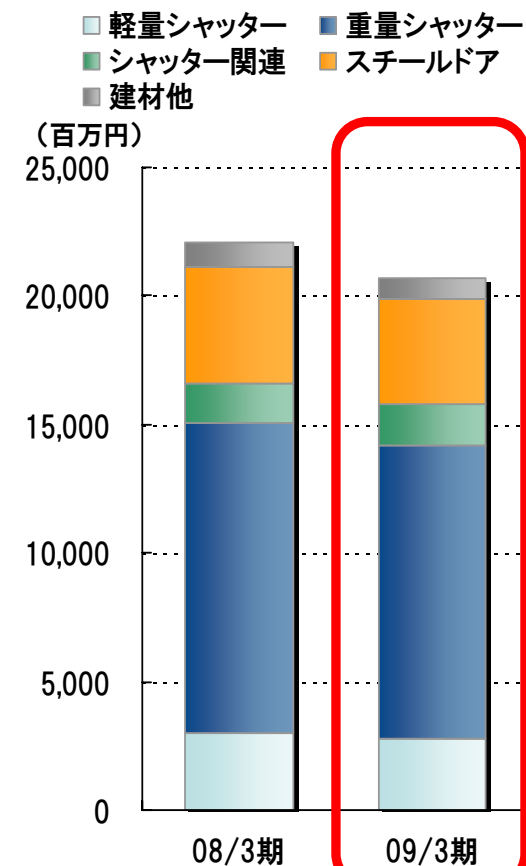
製品別売上明細

TOYOShutter

主力製品のシャッターをはじめ構成比に大きな変化なし

(単位:百万円)

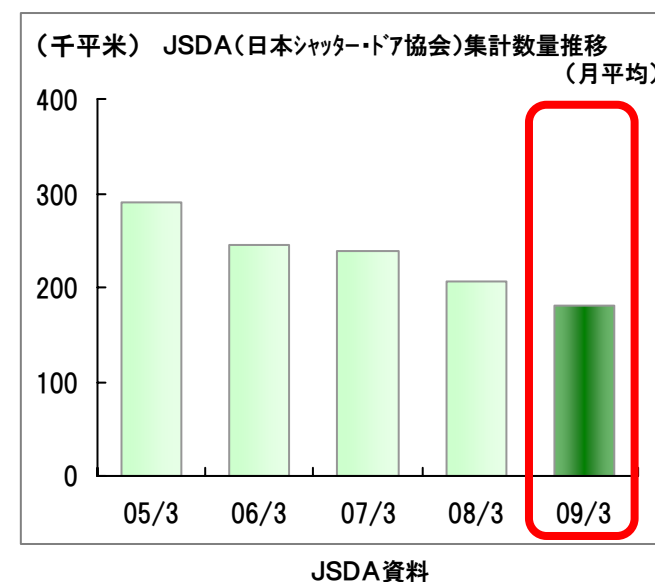
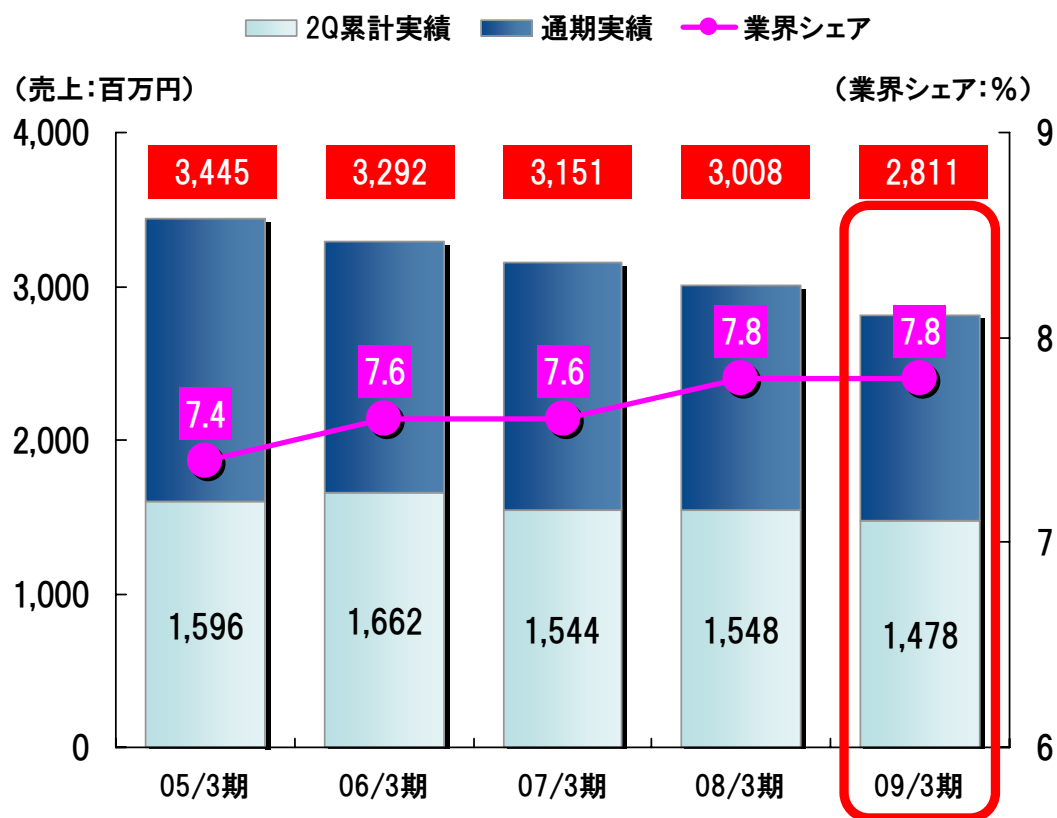
	08/3期 決算	構成比 (%)	09/3期 決算	構成比 (%)	前年同期比 増減率
軽量シャッター	3,008	13.6	2,811	13.6	△6.6%
重量シャッター	12,030	54.4	11,403	55.1	△5.2%
シャッター関連	1,537	7.0	1,575	7.6	2.4%
スチールドア	4,530	20.5	4,086	19.7	△9.8%
建 材 他	998	4.5	831	4.0	△16.7%
合 計	22,105	100.0	20,706	100.0	△6.3%



軽量シャッターの実績推移

TOYOShutter

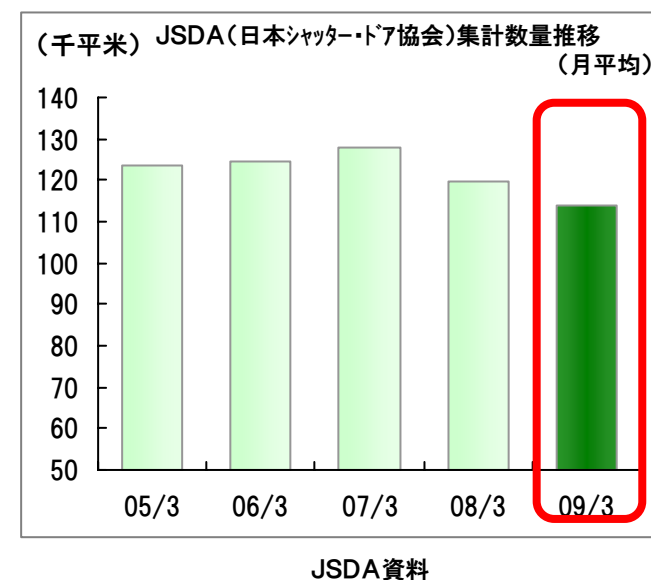
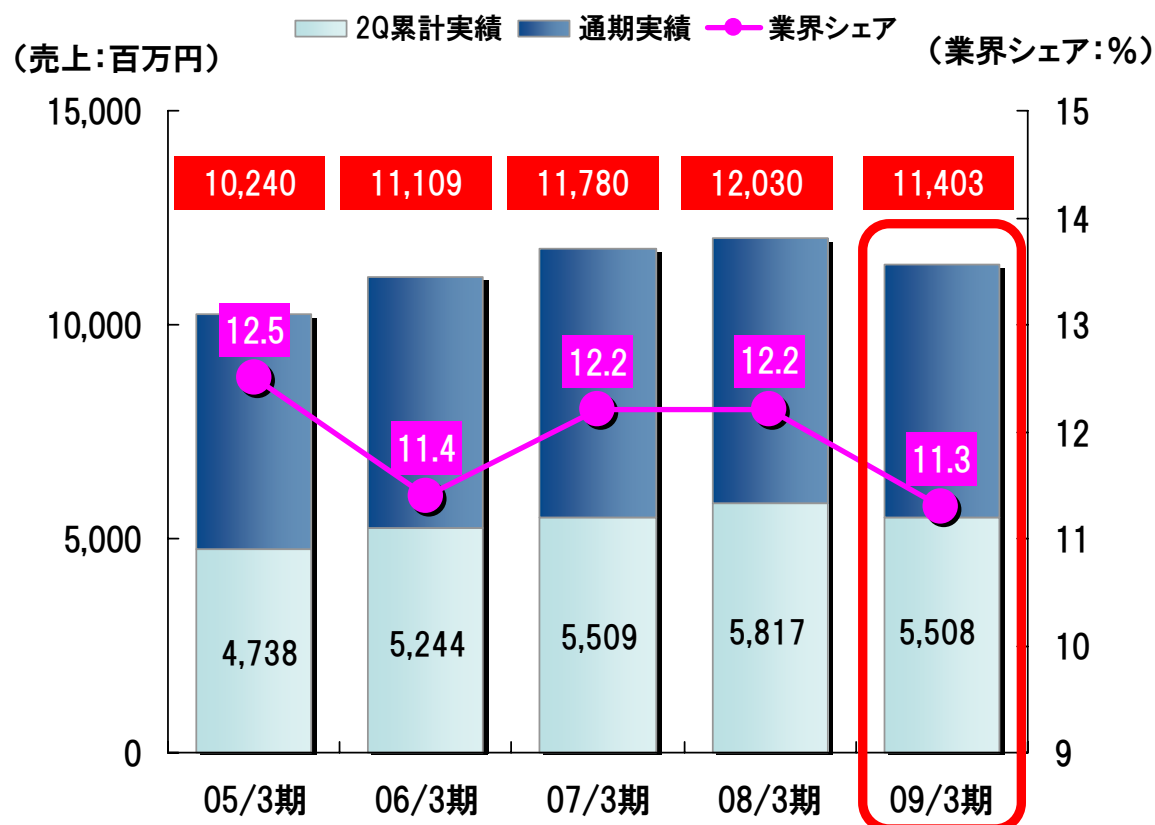
業界シェアの維持も、外部環境の悪化による減少続く



重量シャッターの実績推移

TOYOShutter

選別受注の強化もあり、売上は前年同期比減少

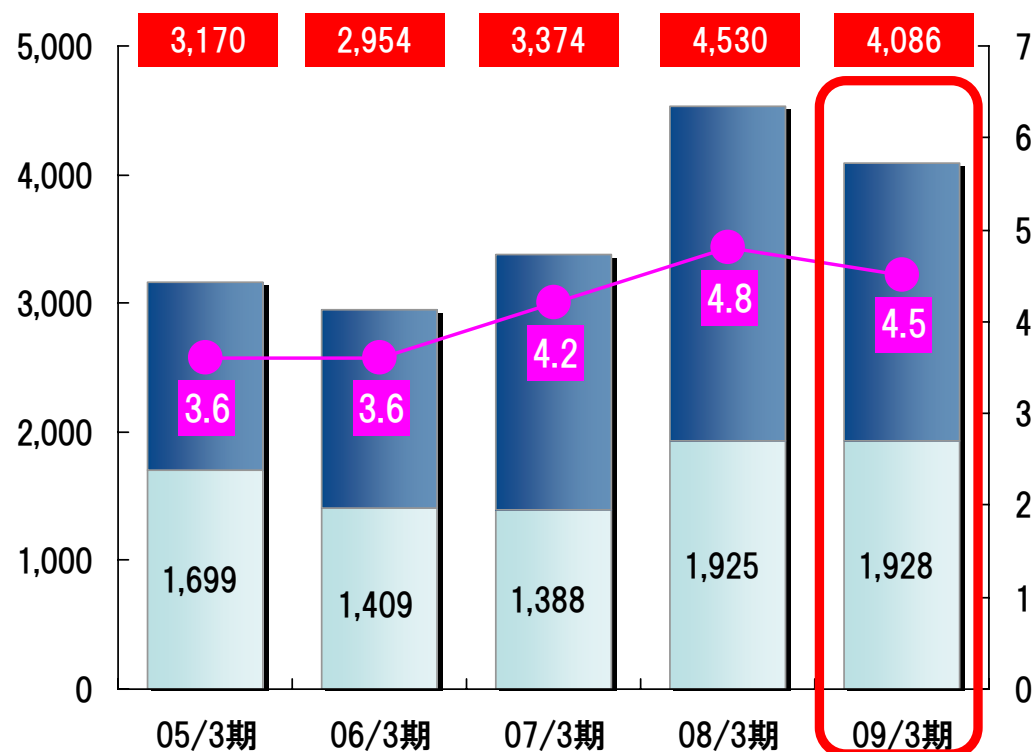


スチールドアの実績推移

TOYOShutter

採算重視の選別受注による、減少

(売上:百万円) 2Q累計実績 通期実績 業界シェア (業界シェア:%)



2009年3月期 キャッシュ・フロー計算書

TOYOShutter

営業活動CF:売上債権の減、仕入債務の増などで増加
投資活動CF:前期並み
財務活動CF:有利子負債の返済を継続

	08/3末	09/3末
期首現金・現金同等物残高	1,083	698
営業活動によるキャッシュ・フロー	670	987
投資活動によるキャッシュ・フロー	△201	△158
フリーキャッシュ・フロー	469	829
財務活動によるキャッシュ・フロー	△854	△685
期末現金・現金同等物残高	698	842

(単位:百万円)

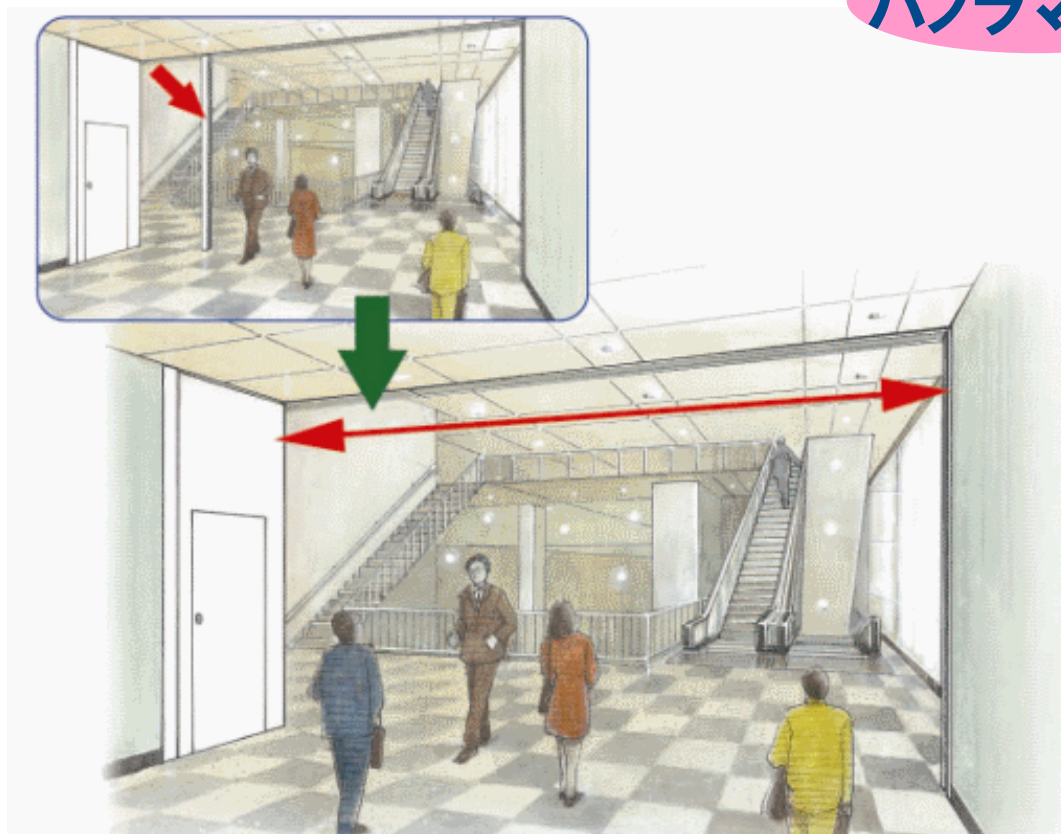
トピックス 新製品①(重量シャッター)

袖扉連動シャッター「TS PANORAMA」

パノラマ

TOYO Shutter

防火・防煙区画の通路から固定柱(レール)をなくし
“パノラマ空間”を演出



従来の固定柱(レール)はなく、シャッターは天井内等に納まり、袖扉は壁面の戸袋等に格納。

トピックス 新製品②(重量シャッター) 大型防火防煙シャッター「ウルトラワイド」

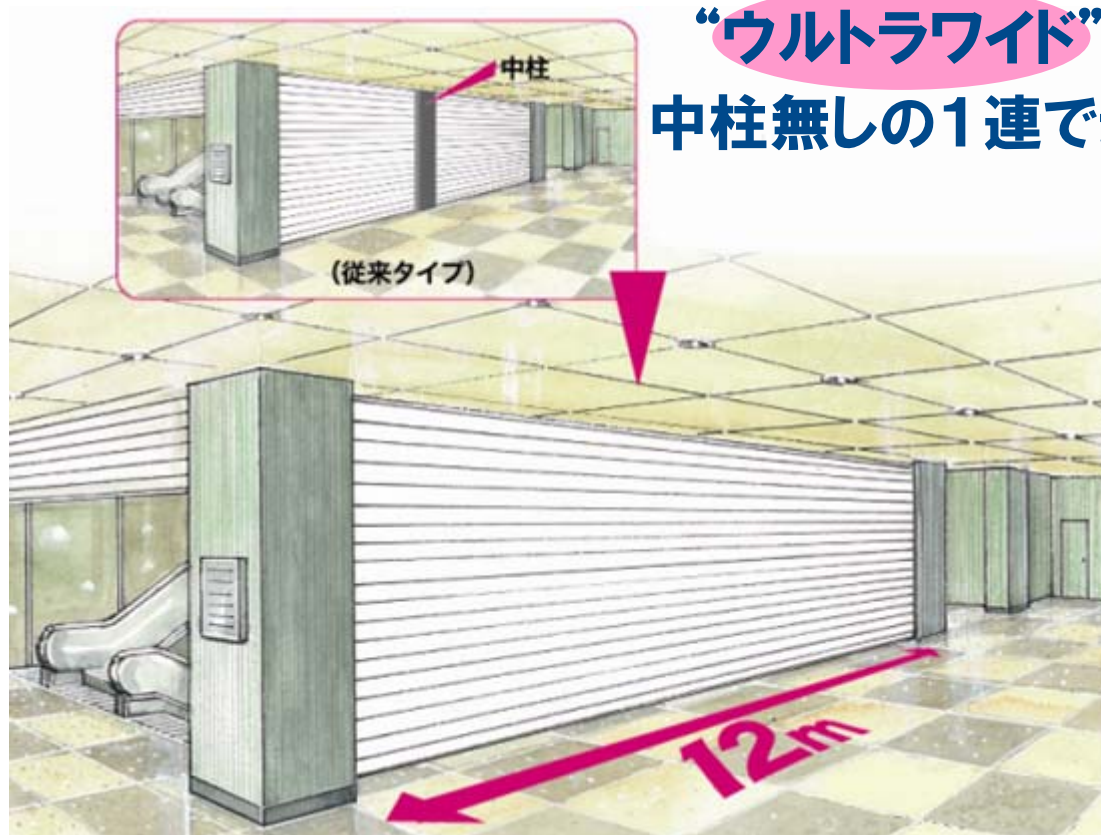
TOYO Shutter

最大開口幅12m・最大開口高8mの大型防火防煙シャッター

“ウルトラワイド”で登場

中柱無しの1連で最大開口面積96m²※を確保

※ 業界最大(2009年5月現在)



危害防止装置標準装備

火災時、避難している人が
降下中のシャッターに挟まれる
のを防ぐ「危害防止装置」を
標準装備。
(バッテリー交換: 約5年毎)

トピックス 新製品③(スチールドア) 防音ドア「TSLレバータイプ」

TOYOShutter

高い遮音性能と、開閉操作の向上

フラットタイプで、安全生活

JISで規定された遮音性能データを取得



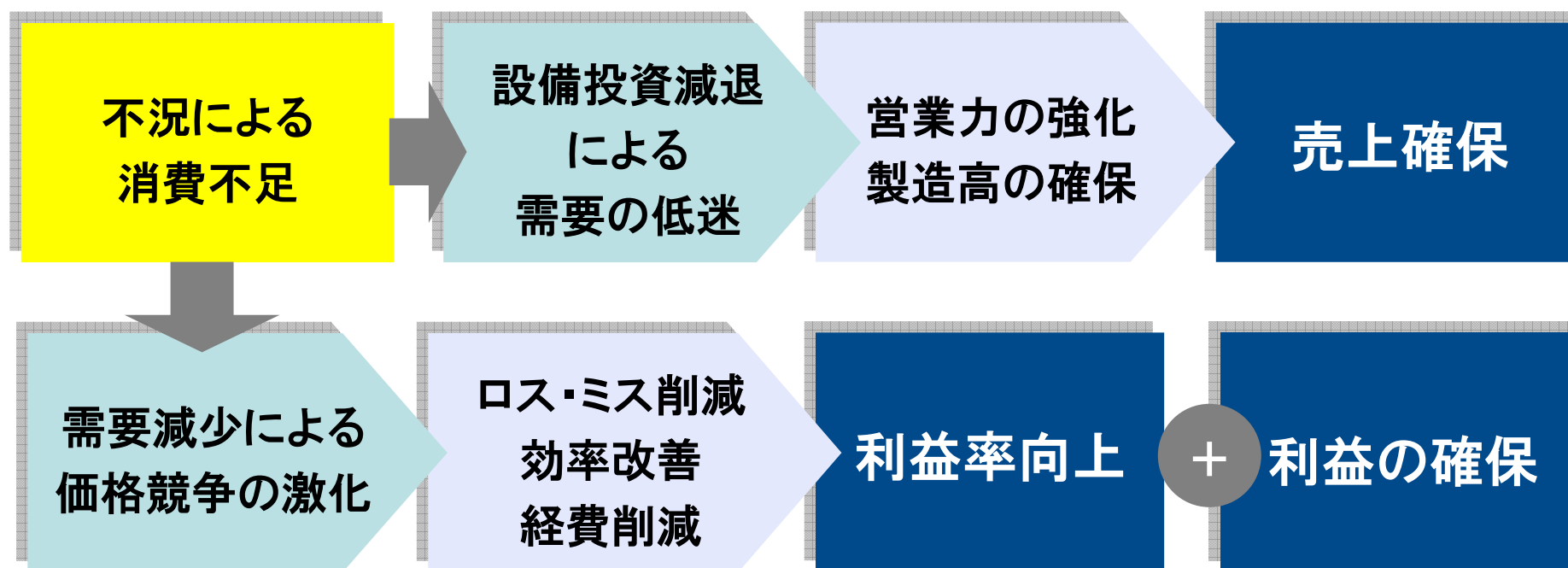
喧騒をシャットアウトし、
静寂・安心・やすらぎを確保

2010年3月期 業績見通し

経営環境の認識

TOYOShutter

厳しい環境下で製造高の確保と収益性改善に注力



市場での存在感を堅持

業績推移と計画

TOYOShutter

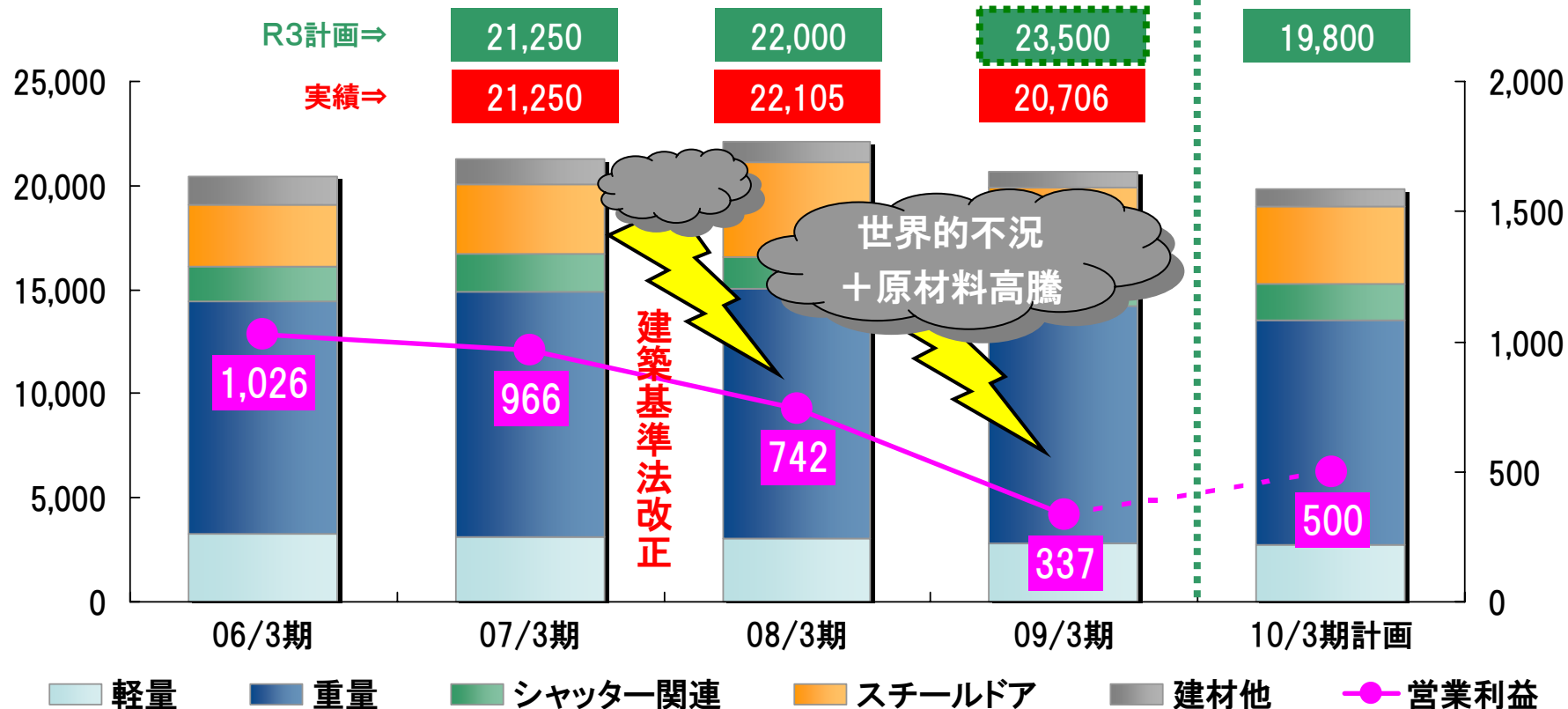
経営環境激変を踏まえ収益性追求を徹底

08年10月発表
修正計画

⇒FP3計画

(売上:百万円)

(利益:百万円)



2010年3月期 通期業績計画

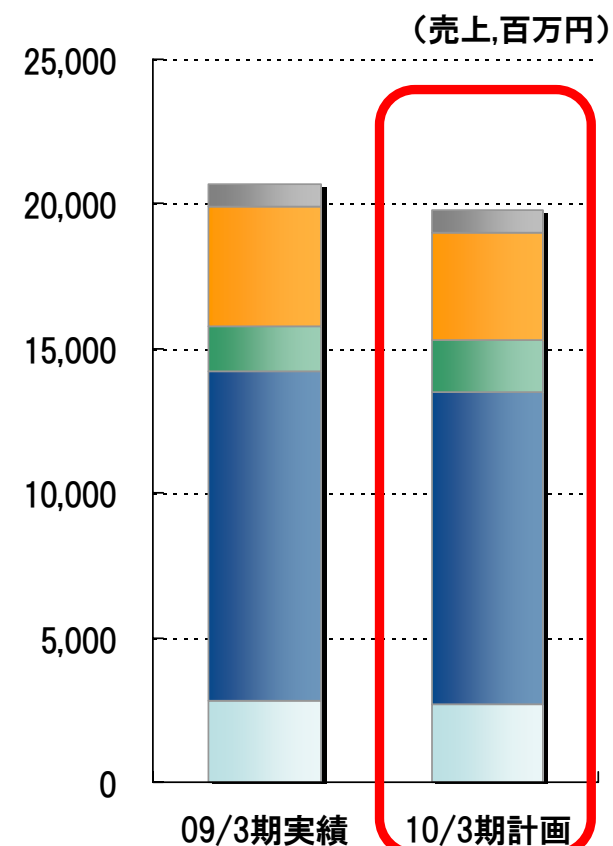
TOYOShutter

売上横ばい、営業利益5億円、当期純利益4億円

(単位:百万円)

	09/3期 実績	10/3期 計画	前年同期比 増減
売 上 高	20,706	19,800	△4.4%
軽量シャッター	2,811	2,700	△4.0%
重量シャッター	11,403	10,800	△5.3%
シャッター関連	1,575	1,800	14.3%
スチールドア	4,086	3,700	△9.4%
建材他	831	800	△3.7%
営 業 利 益	337	500	48.0%
営業利益率	1.6%	2.5%	0.9pt
経 常 利 益	225	400	77.0%
当 期 純 利 益	132	400	203.0%

■ 軽量シャッター
 ■ 重量シャッター
 ■ シャッター関連
 ■ スチールドア
 ■ 建材他

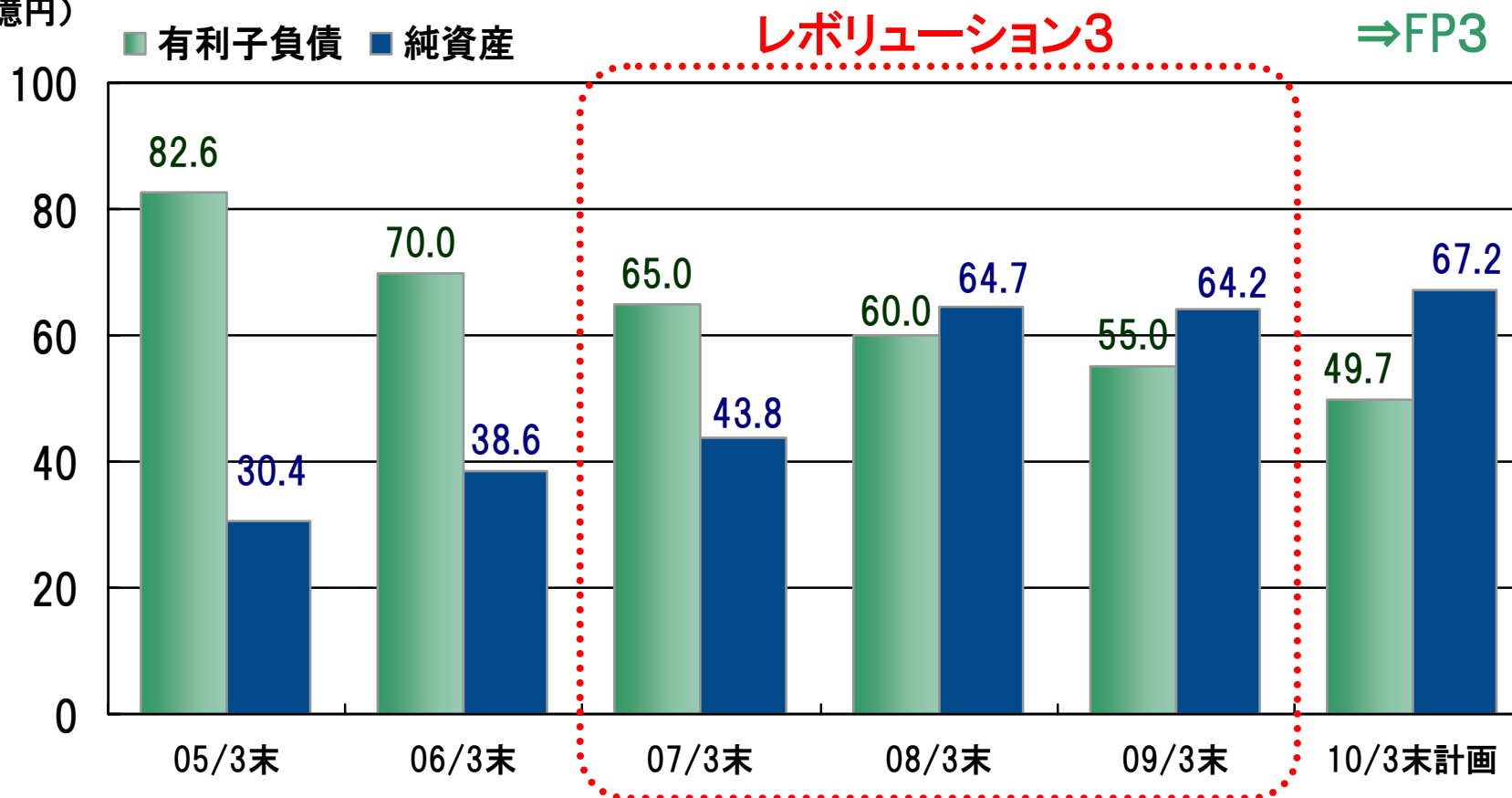


有利子負債・純資産の見通し

TOYOShutter

有利子負債は計画通りに削減中

(単位:億円)

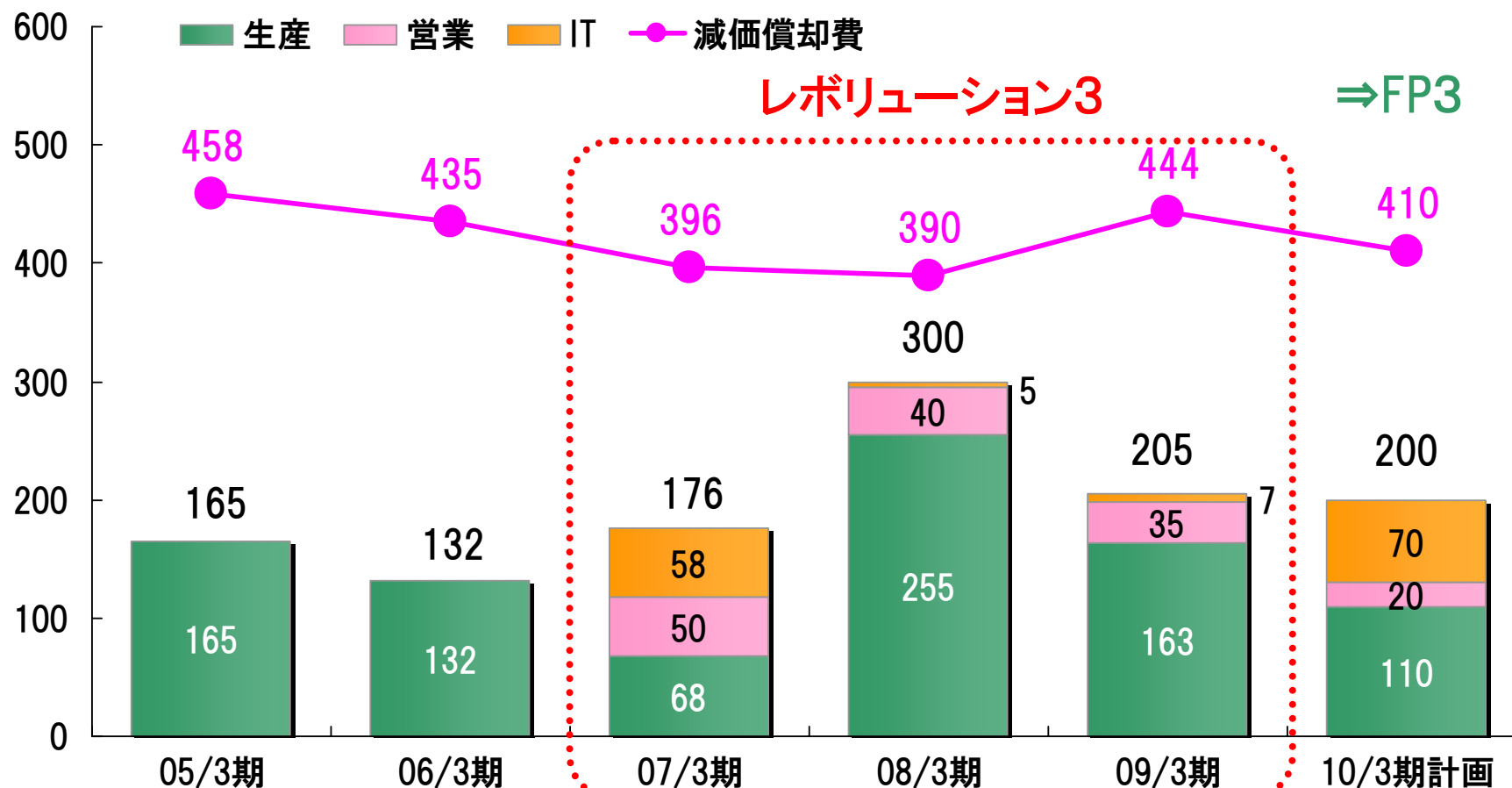


設備投資額・減価償却費の見通し

TOYOShutter

10/3期：事業環境を睨み設備投資は抑制

(単位:百万円)



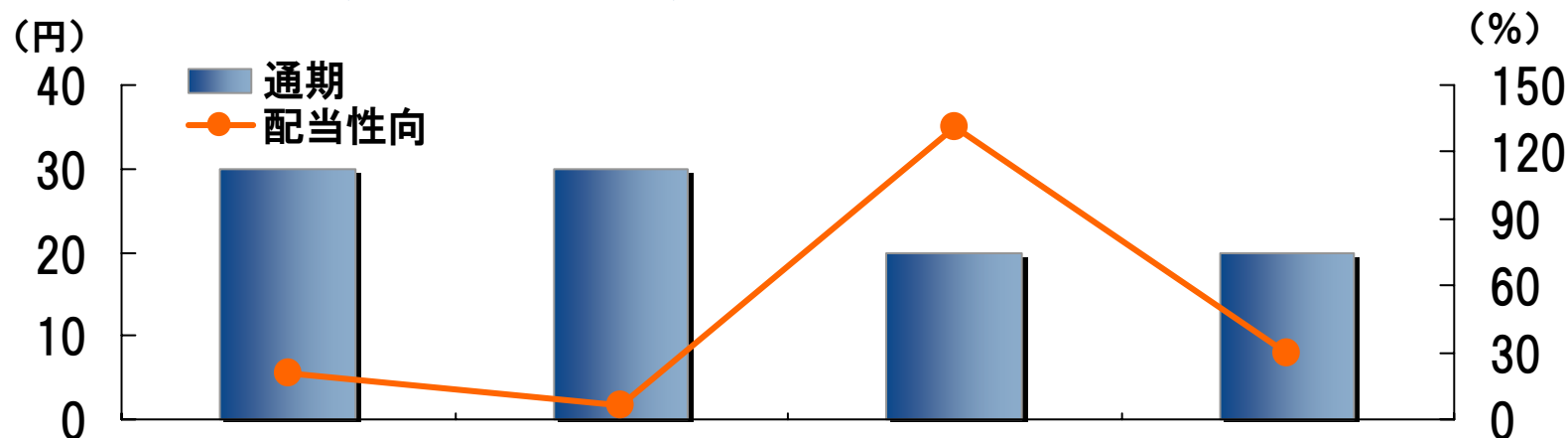
※投資にはリースの実行額を含んでおります。

継続かつ安定した配当を実施

TOYOShutter

10年3月期:20円(上期8円+下期12円) 環境激変も安定した金額を維持

- ▶ 成長による企業価値向上と、利益還元のバランス最適化
- ▶ 設備投資や、研究開発投資に必要な内部留保の確保



	07/3期実績	08/3期実績	09/3期実績	10/3期予想
通 期	30円	30円	20円	20円
配 当 性 向	22.8%	6.5%	131.3%	29.8%

※08/3の特別利益1,900百万円はキャッシュフローを伴わない利益のため、配当原資から除いています。

**中長期戦略と事業の方向性
（新中期経営計画『Fusion Plan 3』）
（2009年4月～2012年3月）**

中長期的な事業環境

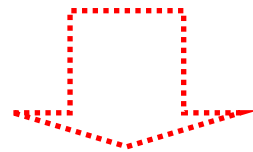


シャッター(建材)市場＝成熟市場

＊市場拡大を期待しにくい状況

都市社会インフラの成熟＋少子高齢化

⇒非住宅着工床面積が縮小傾向



成熟市場での収益性改善が
企業体質強化のカギ

新中期経営計画『Fusion Plan 3』

TOYOShutter

基本方針

Fusion（融合）

- ・製販が融合一体化し、業績を達成する
- ・全社一丸となって、厳しい経済環境に挑む



新中期経営計画『Fusion Plan 3』

TOYOShutter

重点施策

売上拡大より収益確保を優先 企業品質(体質)の向上を実践

1. 組織体制の強化
2. 営業・生産の一体化
3. コストの削減

＊製造高の確保も当然めざす。

新中期経営計画『Fusion Plan 3』 数値目標

TOYOShutter

(単位:億円)

収益性を強化: 2012年3月期 営業利益率3.9%

	2010/3	構成比	2011/3	構成比	2012/3	構成比
売上高	198.0	—	202.0	—	204.0	—
営業利益	5.0	2.5%	6.5	3.2%	8.0	3.9%
経常利益	4.0	2.0%	5.5	2.7%	7.0	3.4%
当期純利益	4.0	2.0%	3.0	1.5%	4.0	2.0%

新中期経営計画『Fusion Plan 3』 具体的施策

TOYOShutter

販売と生産の一体化

- ・地域事業部制の採用

技術力の強化

- ・商品品質の追求

営業力の強化

- ・営業人員の増強
（社内人員の適正配置）
- ・メンテサービス営業の推進
（施工物件のフォロー体制確立）

コスト圧縮

- ・諸経費の見直し
- ・投資計画の厳選

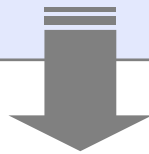
生産性の改善

- ・TS－KAIZEN運動
の継続・推進
（仕損品等経費の削減）

新中期経営計画『Fusion Plan 3』 具体的施策の意義



	売上の確保	利益の追求
人・組織の強化 +	営業人員の増強 (社内人員の適正配置)	地域事業部制 の採用
収益機会の獲得 +	メンテサービス 営業の推進	
製品力の強化	商品品質の追求	コスト圧縮 生産性の改善

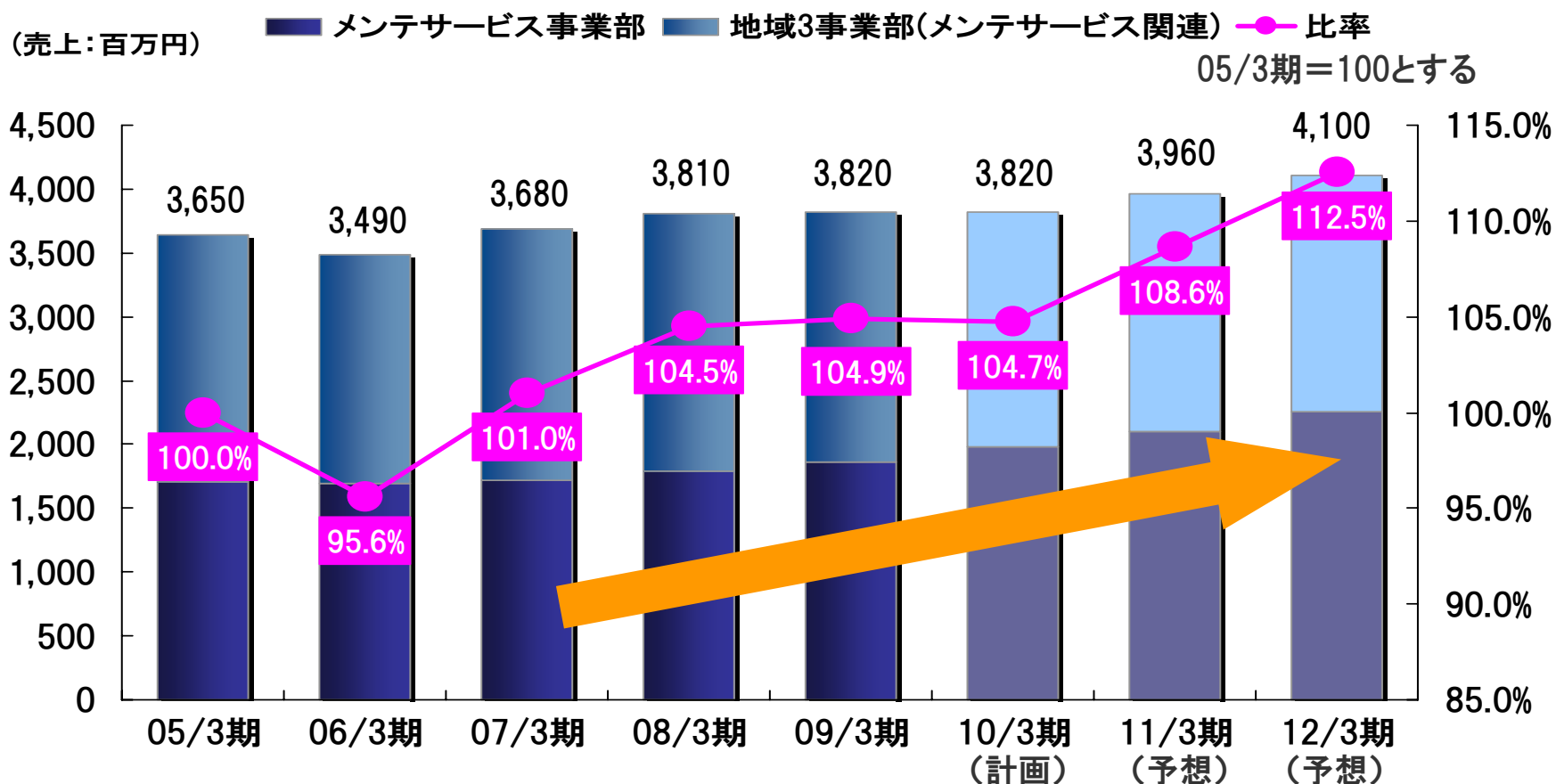


売上確保と利益追求による市場での存在感向上

新中期経営計画『Fusion Plan 3』 増加傾向にあるメンテサービス事業

TOYOShutter

顧客関係強化・収益機会獲得に効果



新中期経営計画『Fusion Plan 3』 営業・生産・製品の企画管理の一体化



製造・販売の企画管理部門の一体化

営業企画部

+

生産企画部

+

生産技術部

期待される効果

- ・意思決定のスピード化
- ・顧客ニーズに合わせた製品開発・販売ペースの向上
- ・組織効率の向上による業務コストの効率化

新中期経営計画『Fusion Plan 3』 製品別売上計画



製品売上構成比を変えずに安定成長

(単位: 億円、%)

	10/3期	構成比	11/3期	構成比	12/3期	構成比
軽量シャッター	27	13.6	27	13.4	27	13.2
重量シャッター	108	54.6	111	54.7	111	54.3
シャッター関連	18	9.2	19	9.4	21	10.2
スチールドア	37	18.6	37	18.4	37	18.3
建 材 他	8	4.0	8	4.1	8	4.0
合 計	198	100.0	202	100.0	204	100.0

参考資料 (東洋シャッターについて)

会社概要

The logo for TOYOShutter, featuring the word "TOYO" in blue and "Shutter" in green, with a stylized shutter icon.

関西を中心に発展してきた創業50余年の老舗シャッター・メーカー

商 号	東洋シャッター株式会社
設 立	1955年9月10日
資 本 金	18億3,821万円
株式上場	市場第1部(東京・大阪証券取引所)(No.5936)
本店所在地	大阪府中央区南船場2丁目3番2号 南船場ハートビル12F
代 表 者	代表取締役社長 藤田 和育
従業員数	652名(2009年3月末連結)
事 業 所	2本社、13支店、1営業部、66営業所・メンテナンスセンター、3工場 その他特約店、取次店全国主要都市
製造施設	奈良工場、つくば工場、九州工場

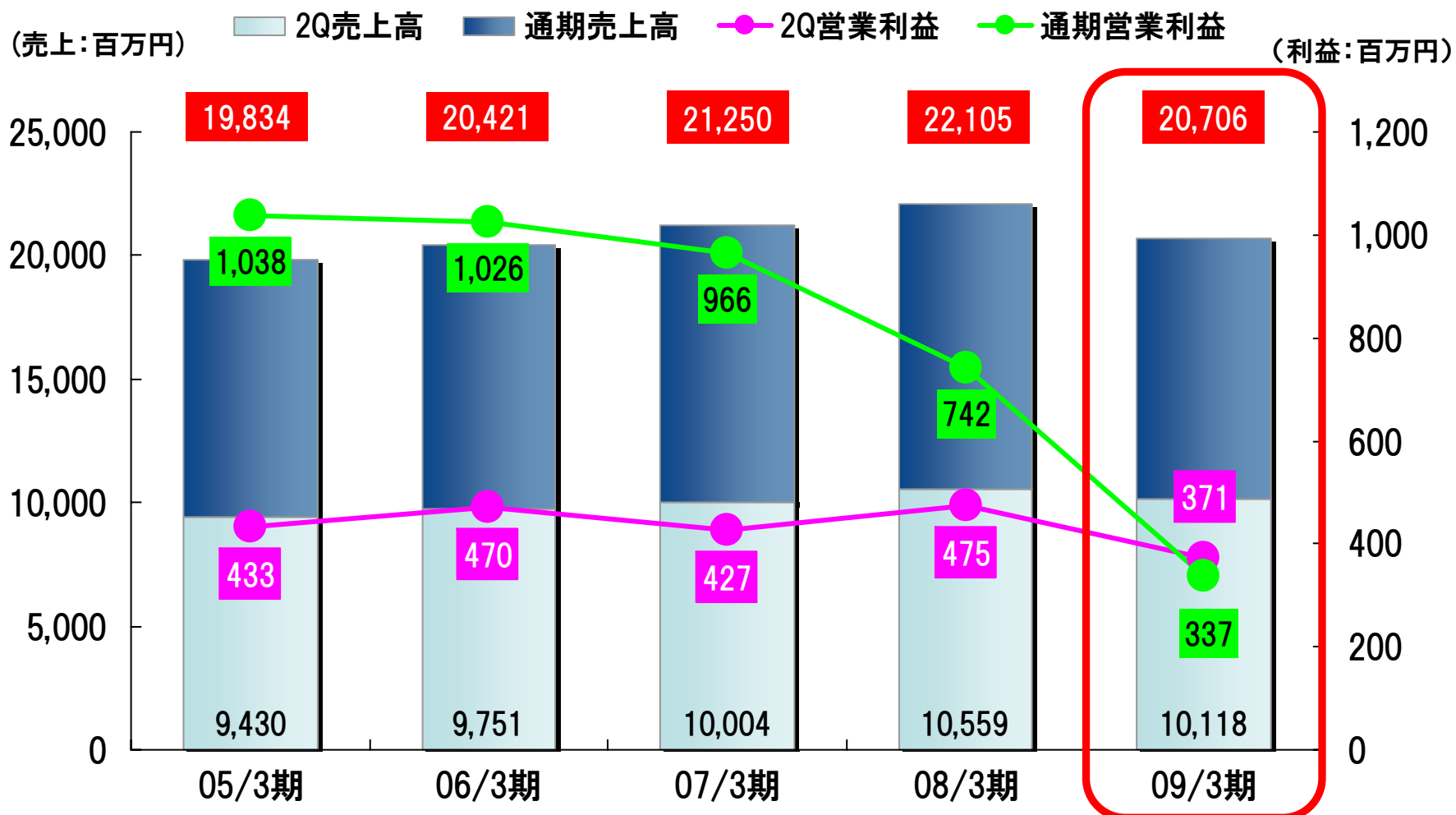
沿革

The logo for TOYOShutter, featuring the word "TOYO" in blue and "Shutter" in green, with a stylized camera shutter icon integrated into the "O" of "TOYO".

1955年 9月	大阪市西淀川区でシャッターの販売を目的として創業
1973年10月	東京本社を東京都中央区に開設し、二本社体制
1987年10月	(株)日本シャッター製作所と合併 九州支店、鹿児島支店、枚方工場、九州工場、(株)南日本シャッター製作所を継承
1989年 2月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
1989年 9月	東京証券取引所および大阪証券取引所の市場第一部に指定替え
1993年 3月	つくば工場を新設し、土浦工場を閉鎖
2000年 5月	枚方工場を閉鎖し、奈良工場に集約。九州工場を鹿児島に集約移転
2003年 7月	大阪市中心部南船場に本社移転
2006年 2月	中期3ヵ年計画「レボリューション3」を策定
2006年10月	浜松市(静岡県)に営業拠点を開設
2006年11月	松山市(愛媛県)に営業拠点を開設
2007年 7月	平塚市(神奈川県)に営業拠点を開設
2009年 2月	中期3ヵ年計画「Fusion Plan 3」を策定
2009年 4月	寝屋川市(大阪府)にメンテサービスセンターを開設

連結業績推移

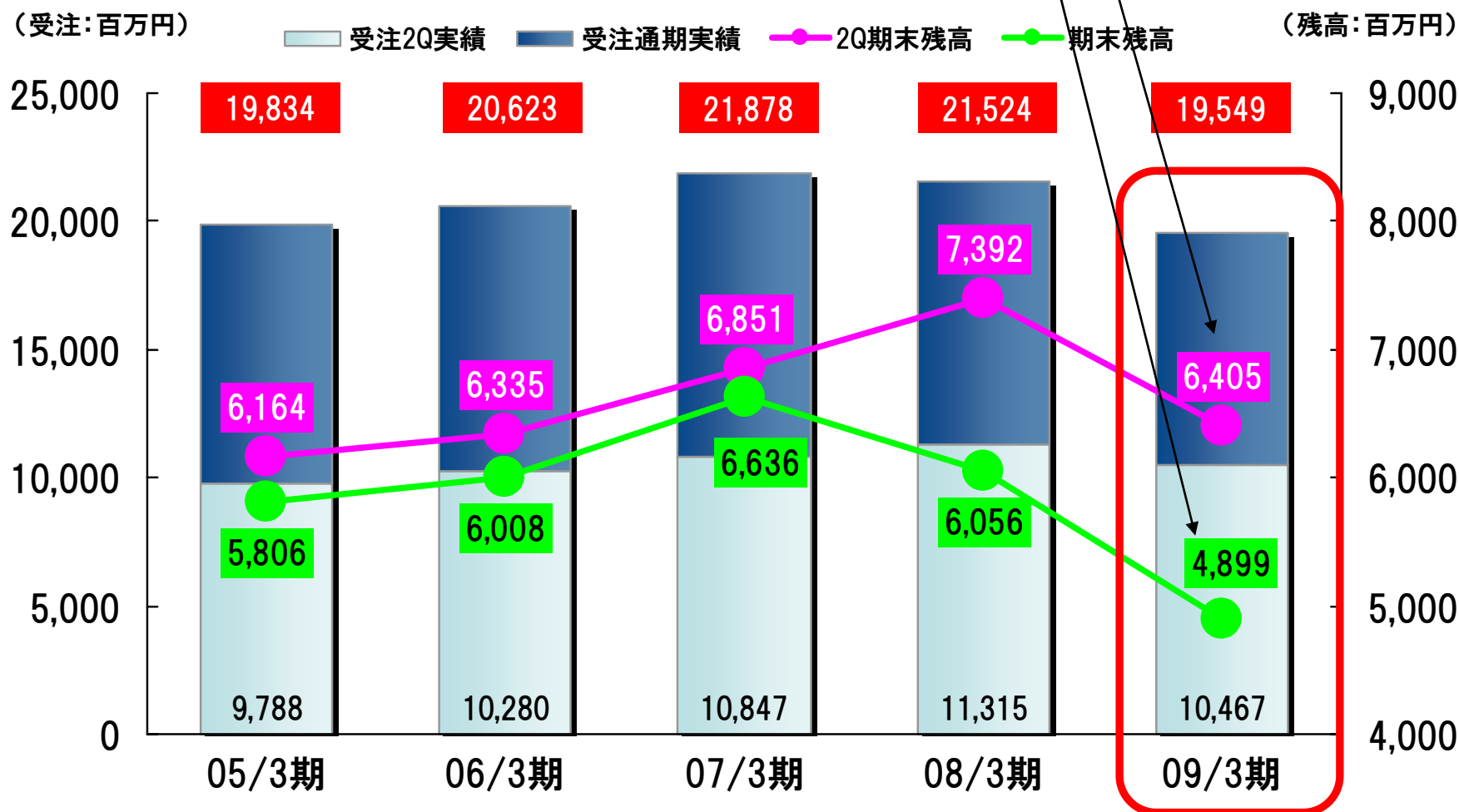
TOYOShutter



受注実績 & 受注残高推移

選別受注の
徹底

TOYOShutter



免責事項



この資料には、当社の業績や事業計画などに関する将来的予想を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予想に関する記述および資料は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想です。

実際の業績などは、今後の経済動向、その他の社会・政治情勢等様々な要因により、記述されている将来予想とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。